

緊急輸血が必要な患者様並びにご家族様へ

(ver2.0 2007年9月25日改定)

担当医療スタッフ一同全力で診療にあたらせて頂いていますが、患者様の容態はきわめて深刻で緊急輸血が必要と判断しました。落ち着いてから担当医師より改めて説明させていただきますが、ご一読のうえ緊急輸血についてご理解とご同意をお願いします。

以下の場合にすぐに申し出てください

- 輸血を拒否される場合。
- 患者様が① Rh 陰性 (Rh マイナス) の血液型、② 不規則性抗体陽性であることが判明している場合。

緊急輸血について

- 輸血は血液型をはじめとする検査をおこない適合性が確認されてから実施されますが、採血してから全ての検査が完了するまでにおよそ70分が必要です。
- 患者様の置かれた状況は検査を待つことができない緊急事態で、直ちに輸血しなければ救命困難であると判定されました。
- 当院ではこの様な状況下でも速やかに輸血が行えるよう緊急輸血手順を定めています。
- この緊急輸血手順ではどの血液型の人にも比較的安全に輸血できるO型赤血球またはABO血液型一致赤血球を輸血します。新鮮凍結血漿はAB型を輸血します。これらは人為的なミスではありません。
- この手順を順守すると検査が完了する前の血液でも約98.5%の患者様には検査が完了した血液と同等の安全性が保証できます。残り約1.5%の方には溶血(輸血した赤血球が患者様の体内で分解すること)を生じますが致死的になることは希で、発生した場合にはその対策に万全を尽くします。
- 検査が完了し適合した血液が用意でき次第これに切り替えます。
- 一般的な輸血について(目的と起こりうる副作用など)は別紙にてご説明致します。

緊急輸血の同意書

(ver2.0 2007年9月25日改定)

福井大学医学部附属病院長 殿

緊急輸血について 科 医師から説明を受け以下のように
意志決定しました。

説明を受けた項目

- 現在の病状が重篤で輸血検査を待たずに輸血をしなければ、救命困難であること。
- 当院に定められた緊急輸血の手順に従い緊急輸血を行うこと。
- 緊急輸血にみられる副作用の頻度と重症度について。
- 輸血に関する一般的な事項については輸血説明書にて説明をうけること。

いずれかを丸で囲んでください。

緊急輸血の実施に同意します。

その実施を拒否します。

20 年 月 日

住所

署名

(続柄)

本人が未成年または署名できないなどの場合には、代理人が署名してください。